

## 第106回 ゴミ収集パイプライン利用者の会 会議整理(要約版)

### ① 目的

- 引継書を共有し、活動内容を次年度へ引き継ぐ。
- パイプラインの現状と課題を共有する。
- 実証実験(モニター)の進捗を確認する。
- 今後の方向性を整理する。

### ② 情報共有

#### ■ パイプラインの現状

- 芦屋浜は稼働約45年。
- 維持費は年間約2.3億円。
- 補修は「延命措置」の段階。
- 条例により終了時期は決定済み。  
(芦屋浜2039年・南芦屋浜2051年)

現在は、「安全に維持しながら次の方式へ移行する準備期間」に入っている。

#### ■ 利用者起因トラブル

2025年度の利用者起因トラブルは22件。

主な内容

- カギ異常
- ごみ押し込み
- 大型ごみ投入

一方で、全体障害の多くは設備老朽化によるものとなっている。

#### ■ 高浜地区問題

現在も不適切投入が続いており、

- カラス被害
- 悪臭
- 夜間排出  
などが発生している。

また、短期賃貸住宅や外国人居住者対応など、「居住構造の問題」が課題となっている。

#### ■ 実証実験(モニター)

候補地域

- 高層:アステムA・B棟
- 中層:ラ・ヴェール
- 戸建:緑西地区
- タウンハウス:浜風第三住宅

利便性・景観・管理負担などを検証する予定。

### ③ 議論

#### ■ 維持管理

- 利用者起因停止をどう減らすか。
- 多言語・図解表示をどう進めるか。

#### ■ 実証実験

- 24 時間排出を認めるか。
- カラス対策をどうするか。
- 地域ごとの方式をどう決めるか。

#### ■ 情報共有

住民の現状理解不足が大きな課題。老朽化・費用・停止リスクを継続的に説明する必要がある。

#### ■ AI 活用

- A4 一枚要約
- 次第の早期公開
- AI による情報整理

を進め、「説明中心」から「合意形成中心」の会議へ転換する提案を行った。

#### ④ NEXT ACTION

##### 利用者の会

- 引継書による情報共有
- 多言語・図解啓発
- 紙資源分別の推進

##### ワーキンググループ

- 実証実験準備
- 英語版アンケート作成
- モックアップ検討

##### 芦屋市・管理組合

- 高浜地区対策継続
- モニター承認・説明会実施

##### 総括

現在の課題は、「設備老朽化」だけではなく、

- ごみマナー
- 短期賃貸問題
- 外国人対応
- CO<sub>2</sub>削減
- 代替収集移行

を含む「地域全体の課題」となっている。今後は、市民・行政・管理主体が協力しながら、次の仕組みへの合意形成を進めることが重要となる。